## 二重格語尾が含まれるモンゴル語の日本語訳に見られる特徴

ゴ スチンゴワ

# 1. はじめに

本稿では、中国内モンゴル自治区 におけるモンゴル語を母語とする日本語学習者2 が属格語尾を基本とする二重格語尾が含まれるモンゴル語の文を、どのように翻訳し ているかについて考察する。現代モンゴル語には7つの基本的な格助詞があり、主格 以外の格助詞にはそれぞれ格語尾がある。具体的にモンゴル語の主格はゼロ語尾であ る。即ち主格を表す本来の語尾は存在しないが日本語の格助詞「が」「の」「に」「で」 「を」と対応させられる。モンゴル語の属格には「๗」「๗」「๑」という三つの格語尾 があり、「が」「の」「に」に対応する。対格には「セ」「ウ」という二つの格語尾があり、 「が」「を」に対応する。与位格には「も」「も」という二つの格語尾があり、「が」「に」 「で」「を」「へ」に対応する。奪格には「w」という一つの格語尾があり、「が」「に」 「が」「に」「で」「を」に対応する。また共同格は「ਆ」という一つの格語尾があり、 「に」「と」に対応する。しかし、モンゴル語の格助詞は日本語の格助詞と異なり、二 つの異なった格語尾を重ねて用いる場合があり、これは二重格語尾と呼ばれる。フフ バートル (1993) は二重格語尾として属格語尾♥vin、♥un/ün、゚u/ü+与位格語尾♥ du/dü、%tu/tü および属格語尾√yin、√un/ün、%u/ü+共同格語尾 %tai/tei[tai,tɔi,tei] tai/tei を挙げ、例えば次のような用例が見られるとする。

### (1) 先生のところへ行く。

これをモンゴルに翻訳すると「 $rac{6m^{4}}{2} rac{6m^{4}}{2} rac{1}{2} rac{$ 

# (2) その人のと同じものを買おう。

以上、(1) と(2)のモンゴル語の翻訳文のように、モンゴル語では二種類の格語 尾を重ねて使うことのできるケースがしばしばみられる。しかし、浅川・竹部(2014) では、日本語の助詞分類の基礎となる助詞相互の承接に関する原則の一つとして、格 助詞と格助詞とは重ならないと記述しており、その理由として、格助詞は体言または 体言に準ずる語を承けて下の語との関係を表す助詞なので、格助詞どうしが重なるこ とができないと説明している。そこで、内モンゴル自治区の日本語学習者は二重格語 尾が含まれるモンゴル語の文を日本語に翻訳するに際して二重格語尾をどのように翻

<sup>1</sup>以下、内モンゴル自治区という。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> 本稿で参考にした先行研究では調査対象者は同じモンゴル語母語話者でもモンゴル人学習者、またはモンゴル人日本語学習者と使われている場合がある。しかし、本稿ではモンゴル語を母語とする日本語学習者と統一する。

訳しているかを明らかにすることを、本稿の目的とする。

# 2. モンゴル語における二重格語尾

#### 2.1 定義と機能

モンゴル語では「 $m_1$ <u>n</u><u>d</u><u>e</u>] 「 $m_2$ <u>e</u><u>n</u>] 「 $m_2$ <u>e</u>] などのような「<u>n</u><u>d</u> (属格語尾+与位格)」「 $\underline{m}$  (与位格+奪格)」「 $\underline{m}$  (共同格+与位格)」のように、異なった二種類の格語 尾が重ねて使われているものを二重格語尾と呼ぶ。

☆☆☆ (2009) では、一つの文で重ねて使われる二つの格語尾の一つ目の格語尾は語を造る機能があり、二つ目の格語尾は語の格を決定する機能があるとされている。<sup>3</sup>

## 2.2 分類

モンゴル語の二重格語尾は研究者によって分類の仕方が異なる。内モンゴル大学モンゴル語学学院モンゴル語文研究所(2005)によれば、モンゴル語では異なる二つの格語尾が重なって使わることによって、語と語の間の複雑な関係を示し、重ねて使うことができる格語尾は属格語尾、共同格語尾、与位格語尾の三種類を基本とする。

これらの先行研究を踏まえ、本稿ではモンゴル語の二重格語尾の組み合わせを9種類に分けることとする。すなわち、それぞれ、属格語尾を基本とするもの6種類、与位格語尾を基本とするもの1種類、共同格語尾を基本とするもの2種類である。さらに、これら3つの類型の二重格語尾に属する格語尾の組み合わせはつぎのとおりである。すなわち、「属格語尾+対格語尾(em)」、「属格語尾+与位格(m)」、「属格語尾+与位格(em)」、「属格語尾+専格(em)」、「属格語尾+共同格語尾(em)」、「属格語尾+奪格語尾(em)」の6種類、与位格語尾を基本とするものとして「与位格語尾+奪格語尾(em)」の1種類、共同格語尾を基本とするものとして「共同格語尾+与位格語尾(em)」、「共同格語尾+奪格語尾(em)」の2種類がある。ただ、与位格語尾と

<sup>3 % (</sup>中国語表記、图门吉日嘎拉) (2009) より引用した。筆者は元のモンゴル語を日本語に翻訳したものである。

<sup>4</sup> 原語では「内蒙古大学蒙古学学院蒙古语文研究所」である。

共同格語尾を基本とするものは属格を基本とするものと比べると多くないため、本稿では属格語尾を基本とした6種類の二重格語尾のみを扱うことにする。モンゴル語の属格語尾には3つの格語尾があり、語幹によって使い分けされる。清格爾泰(1991)は、属格語尾は所有、性質、部分、原材料、容器、時点、場所、設立主体、固有の名称、動作主、範囲を表すと述べている。

#### 3. 先行研究

## 3.1 日本語とモンゴル語の助詞に関する対照研究

日本語とモンゴル語の対照研究では小沢重男 (1997)、赛罕乌其拉图・塔娜 (2013)、 エルデネビレグ ウヤンガ (2009)、フフバートル (1993) などが挙げられる。

小沢(1997)では、モンゴル語の格助詞の接続方法や用法について記述があるが、 二重格語尾に関する言及はない。

赛罕乌其拉图・塔娜(2013)では、日本語の格助詞の用法について記述がある。特に、それぞれの格助詞の用法ごとに例文を添えてモンゴル語訳をつけて説明しているため、日本語の格助詞とモンゴル語の格語尾の対応関係を具体的な用例を通して理解することができる。

エルデネビレグ ウヤンガ (2009) は日本語とモンゴル語の格関係の対照という観点から、主に格助詞「を」「に」「で」がモンゴル語のどの格語尾と対応しているかについて明らかにした。

フフバートル (1993) はモンゴル語の基礎文法書であり、モンゴル語の二重格語尾についてモンゴル語には格語尾が二つ重なる場合があると述べている。なかでもよく使われるのは属格語尾+与位格語尾および共同格語尾であると指摘する。しかし、二重格語尾の分類までは踏みこんでいない。

# 3.2 習得に関する先行研究

格助詞の誤用についての研究としては小林幸江 (1983)、スヘバートル・サインザヤ (2004) が挙げられる。

小林(1983)は、モンゴル語を母語とする日本語学習者の代表的格助詞の使用に際して生じる誤用を、実例を挙げて説明した。

スヘバートル・サインザヤ (2004) は、モンゴル語を母語とする日本語学習者が助詞「に」「で」の場所を表す用法と「を」の対象を示す用法においてよく誤用を起こすことを明らかにした。しかし、誤用の原因は明らかにしていない。

#### 3.3 本研究の位置づけ

先行研究では日蒙両言語の助詞の比較研究や日本語学習者の助詞の習得について、 モンゴル語を母語とする日本語学習者の助詞に関する誤用およびモンゴル語の格語尾 を部分的あるいは全体的にとりあげ、日本語の格助詞との比較対照研究を行ってきた。 しかし、日本語とモンゴル語の助詞は1対1対応を見せるものもあるが、日本語は二 重格語尾を持たない。そのため、二重格語尾を含むモンゴル語を日本語に翻訳する際に誤用がしばしば生じる。日本語学習においては特に意識して、正しい解釈や訳語を模索する必要があり、また指導における方法論を確立する要請が高くなると考えられる。

### 4. 研究目的

本稿では以下の二つの問題を明らかにすることを目的とする。

- ① モンゴル語の属格語尾を基本とする二重格語尾を学習者が実際にどのように翻訳しているのか。
- ② 翻訳の特徴からこのように翻訳している原因を明らかにする。

### 5. 研究方法及び調査対象者

2019年6月7日から2019年6月27日までの20日間にわたり、属格語尾を基本とする6種類の二重格語尾それぞれにつき3つのモンゴル語の文、計18の文を作成し、モンゴル語を母語とする2名の大学教員にモンゴル語のチェックを依頼した。そのうえで、それら18の文をランダムに並べ替え、内モンゴル自治区の大学で日本語を専攻とする20名のモンゴル語を母語とする日本語学習者が記してもらった。また、モンゴル語を母語とする日本語学習者の出身地、母語以外に使用できる言語および、生活言語について回答してもらった。収集したデータを日本語の翻訳文の中からモンゴル語の二重格語尾の翻訳にあたる部分を取り出し、それから、モンゴル語を母語とする日本語学習者が翻訳している実例の形を基に分類した。

#### 6. 調査結果

#### 6.1 属格語尾+対格語尾(6㎡)の調査結果

まず、属格語尾+対格語尾 (6%) に当てられた訳語を頻度順にみると、「のも」と翻訳しているのが 22 例、「のを」と翻訳している用例は 12 例。「の本も」が 7 例、「を」が 5 例、「から」が 3 例、「と」が 2 例、「のものを」と「のと」がそれぞれ 2 例みられた。また「の家から」、「 $\phi$ 」、「をも」「の」「の本を」と翻訳している例がそれぞれ 1 例であった(図 1 参照)。このように「助詞+助詞」で翻訳されている例が最も多かった。

#### 6.2 属格語尾+与位格語尾(ᠬ/ೖ)の調査結果

次に、属格語尾+与位格語尾 ( $\mathbf{n}'\mathbf{s}'$ ) の訳例を見ると、60 例中 43 例が「の家に」という訳語をあてており、60 の訳例のうち 43 例。そのほかの訳例としては「へ」が 4 例、「の家へ」、「の家から」、「のへ」がそれぞれ 2 例、「のに」「へに」「家へ」「 $\phi$ 」「家

 $<sup>^5</sup>$  なお、これらの学生のうち、15名が日本語能力試験 2 級(JLPT N2)の合格者、5名が日本語能力試験 1 級(JLPT N1)の合格者である。

に」「の家で」「ので」がそれぞれ1例であった(図2参照)。ここでは、「助詞+名詞+助詞」の形式で翻訳されている例が最も多かった。

# 6.3 属格語尾+与位格語尾(ᠪ๗)の調査結果

3つ目に、属格語尾+与位格語尾( $\mathfrak{s}\mathfrak{s}\mathfrak{s}$ )の訳例を見ると「の家に」と訳されているものが 32 例と最も多い。それに次いで「の家から」と訳されている例が 10 例、「へ」および「に」が 4 例であった。「の家へ」、「のへ」としたものがそれぞれ 2 例。「のところへ」、「のところに」、「へに」、「の家」、「 $\phi$ 」、「から」としたものも 1 例ずつ見られた(図 3 参照)。図 3 からは「助詞+名詞+助詞」で翻訳されている例が最も多かったことが分かる。

# 6.4 属格語尾+奪格(タラッ/)の調査結果

4つ目は、属格語尾+奪格(6 w)「の家から」の形式で翻訳しているものが最も多く 18 例、それに次いで「から」としたものが 13 例、「のから」が 8 例であった。そのほか「より」が 6 例、「のより」が 5 例で、「の服より」が 5 例見られた。そのほかに、「家から」「の家に」「の自転車で」「 $\phi$ 」「のサイズより」のように翻訳されている例はそれぞれ 1 例であった(図 4 参照)。図 4 からは翻訳されるばらつきが多いことが分かる。

## 6.5 属格語尾+造格語尾(🕬)の調査結果

5つ目は、属格語尾+造格語尾(6%)の訳例を見ると「の家に」が37例で最も多く、「ので」が5例、「に」、「の家から」がそれぞれ3例、「のへ」、「へ」、「の家へ」がそれぞれ2例、そのほかにも、「から」「の家を」「のところに」「のも」「のから」「へも」がそれぞれ1例見られた(図5参照)。図5では「助詞+名詞+助詞」で翻訳されている例が最も多かった。

#### 6.6 属格語尾+共同格語尾(タ ५)の調査結果

最後に、属格語尾+共同格語尾(6 ℃)の訳例をみると「のと」が17例、「のも」が18例と拮抗している。「と」が7例、「を共に」が3例、その他は、「の分と」、「の分も」、「の本と」がそれぞれ2例、また「から」、「との」、「の」、「に」、「のまで」、「を」、「の本も」「の本を」「ø」がそれぞれ1例見られた(図6参照)。図6では、「のと」「のも」のように「助詞+助詞」で翻訳されている例が最も多かった。

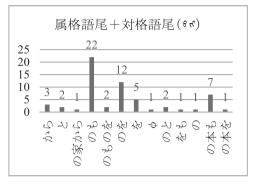


図1 属格語尾+対格語尾(ティ)の組み合わせ

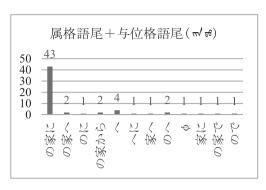


図2 属格語尾+与位格語尾(៧ಳ)の組み合わせ

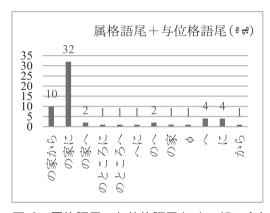


図 3 属格語尾+与位格語尾(🕫 🕏) の組み合わせ

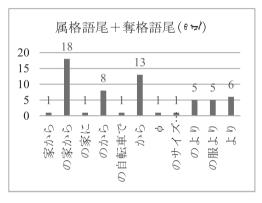


図4 属格語尾+奪格(テッイ)の組み合わせ

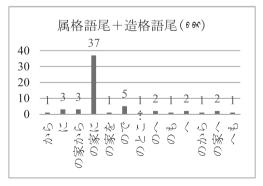


図5 属格語尾+造格語尾(6㎡)の組み合わせ

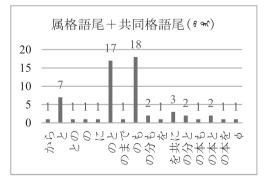


図 6 属格語尾+共同格語尾(6 xf)の組み合わせ

## 6.7 属格語尾を基本とした6種類の二重格語尾の調査結果の分類

上の調査で得られた日本語訳例を品詞の構成に一般化して整理すると、次の表1のようになる。

二重格語尾の分 類 属格語 属格語 属格語 属格語 属格語 属格語 合 (用例数) 尾+対 尾十与 尾十与 尾+奪 尾+造 尾十共 位格語 格語尾 同格語 格語尾 位格語 格語尾 計 翻訳結果 (94) 尾 尾 (6 1<del>√</del>/) (6 er) 尾 (6 分) (₩/₩) の分類 (e 9e) 1 助詞+名詞 0 0 1 0 0 3 ② 名詞+助詞 0 2 0 1 0 0 ③ 助詞+名詞+助詞 186 11 48 46 26 44 11 105 ④ 助詞+助詞 37 5 3 37 13 10 60 (5) 助詞 11 4 9 19 6 11 5 (6) φ 1 1 1 1 0 1

表 1 属格語尾を基本とした 6 種類の二重格語尾の調査結果の分類

用例数は10例以上のものを太字にした。

表1では6種類の属格語尾を基本とする二重格語尾が実際に訳されている結果を示す。この表から、属格語尾+与位格語尾( w/ e) 、属格語尾+与位格語尾( e/ e) 、属格語尾+奪格語尾( e/ w/ e) 、属格語尾+造格語尾( e/ e) の四種類は「助詞+名詞+助詞」の形で多く翻訳されており、属格語尾+対格語尾( e/ e/ e) 、属格語尾+共同格語尾( e/ w/ e) の二種類は「助詞+助詞」の形で多く翻訳されていることが分かる。また、属格語尾+奪格語尾( e/ w/ e) の翻訳は残りの5種類の二重格語尾の組み合わせと比べるとばらつきが見られた。二重格語尾の種類ごとに見ると以下の通りである。

表 1 から属格語尾+対格語尾 ( $\mathfrak{sr}$ ) の組み合わせを、モンゴル語を母語とする日本語学習者は四つの形式で翻訳していることが分かる。最も多い形式は「助詞+助詞」の形であり、合計 60 例のうち 37 であった。その次に、「助詞」と「助詞+名詞+助詞」がそれぞれ 11 例、「 $\phi$ 」が 1 例であった。「助詞+名詞」と「名詞+助詞」で訳された例はなかった。

次に、属格語尾+与位格語尾( $\mathbf{w}$  の)は「助詞+名詞+助詞」の形で最も多く翻訳されており、48 例であった。また「名詞+助詞」が2 例、「助詞+助詞」が5 例、「助詞」が4 例、「 $\phi$ 」が1 例であり、「助詞+名詞」で翻訳された例は見られなかった。

また、属格語尾+与位格語尾( $\mathfrak{s}$ )の訳例で最も多く見られた形式は「助詞+名詞+助詞」の形式で、46例と圧倒的に多い。次に、「助詞」が9例、「助詞+名詞」が1例、「助詞+助詞」が3例みられ、「 $\phi$ 」の形式で翻訳しているのも1例あった。

続いて属格語尾+奪格 (6  $\mathbf{w}$ ) の訳例を見ると、「助詞+名詞+助詞」の形で最も多く、26 例であった。これ続いて多いのが「助詞」の形式で、19 例見られた、「助詞+助詞」の形式で翻訳された用例も 13 例あった。そのほか、「名詞+助詞」、「 $\phi$ 」がそれぞれ 1 例であった。「助詞+名詞」の形では翻訳されたものはなかった。

5つ目として、属格語尾+造格語尾 (66) の訳例を見ると「助詞+名詞+助詞」の形で最も多く翻訳され、44 例であった。その次に、「助詞+助詞」の形で翻訳されている例が 10 例、「助詞」の形式で翻訳された例は 6 例あり、「助詞+名詞」、「名詞+助詞」、「6」の形式では翻訳されたものはなかった。

最後に、属格語尾+共同格語尾(6 %)についてみると、属格語尾+対格語尾の訳例と同様大別して三つの形で翻訳されていることが分かる。すなわち、「助詞+助詞」が最も多い、37 例、次いで「助詞」の形が12 例であり、「助詞+名詞+助詞」が11 例、「 $\phi$ 」が1 例であった。

以上の表 1 からはモンゴル語の二重格語尾を日本語に翻訳するときに形式面でどのような特徴があるかについて明らかにするために次の考察を行う。

#### 7. 考察

これまで、モンゴル語の属格語尾を基本とした二重格語尾を中心に、モンゴル語を 母語とする日本語学習者の翻訳の特徴を、六種類に分類して分析した。翻訳している 形式別に特徴が見られたので、以下で考察を行う。

#### 7.1 「助詞+名詞」の形式

まず、属格語尾を基本とした二重格語尾が「助詞+名詞」の形式で翻訳されている例は1つしかなかった。それは、次に示す調査文1の学習者11による翻訳である。

調査文1: あふりがめるのののかいしまるかりい

模範的な訳文: 私 田中さん の 家 に 自転車 で 行って きた。 学習者 11 の翻訳: 私は田中の家自転車で行ってきた。

ここでは二重格語尾「��・」が「助詞+名詞」の形で翻訳していることが確認できる。しかし、学習者 11 の翻訳した日本語の文は不自然で、「家」の次に「に」が一つ欠けていることが確認できる。内モンゴル自治区におけるモンゴル語を母語とする日本語学習者が中国語もできるため、学習者 11 の母語であるモンゴル語のほか中国語の影響があるかについて確認した。学習者の言語形成を訪ねたところ、中学校までは中国語よりモンゴル語が多く使われており、高校から今までは中国語を多く使うよう

になったという。調査文1を中国語に翻訳すると、「我骑自行车去了田中家。」になる。

中国語の翻訳文からは「田中さんの家に」の箇所を「田中家」で翻訳され、中国語には方向を表す格助詞「に」の脱落が確認できる。そのため、学習者 11 の翻訳文からは中国語にも影響されていると考えられる。ここの結果は小林(1983)の研究結果と一

致している。

### 7.2 「名詞+助詞」の形式

「属格語尾を基本とするモンゴル語の二重格語尾は、上の調査結果からもわかるように「属格語尾+与位格語尾」と「属格語尾+奪格語尾」の二つであり、実例の数は3例である。

模範的な訳文:昨日 スチン の 家 に 行きました。

学習者3:昨日スチン家へ行きました。

調査文 14: ᠬᠬᠺᡝ ᠰᠠᠨ ᠰᠠᠬ/ ᠪ ᡂ ᡂᠷᡍᠳ/ ᠨᠵᠬᠨ ᢊᠡᠷᠬ/ ᡂᠳᡍᠳ ᠠᡵᡳᠯᠨ ・・

模範的な訳文: 先月 スチン の ところ に 行って 一周間に なって来 た。

学習者14: 先月スチンさん家に行って一周間泊まってきた。

調査文8と調査文14ではモンゴル語の文は「昨日スチンさんのいるところに行きました。」という文であり、学習者は翻訳する際に「スチンさんの家に行きました」と翻訳するものを「スチン家」または「スチンさん家」と翻訳している。つまり、所属を表す「の」が省略されていることである。「の」格が省略されている理由として、まず、調査文8を中国語に翻訳すると「昨天去了斯琴家」になる。中国語では「スチンの家」を「斯琴家」或いは「斯琴的家」のどちらでも可能である。そのため、中国語に影響された可能性が高いと考えられる。

# 7.3 「助詞+名詞+助詞」の形式

続いて、属格語尾を基本とした二重格語尾「助詞+名詞+助詞」の形で最も多く翻訳されていることが確認できる。主にどのように翻訳しているかについてまとめると、下の表2のようになる。

属格語尾を基本とした二重格語尾	「助詞+名詞+助詞」の形で翻訳された実例
①属格語尾+対格語尾(6㎡)	の家から・のものを・の本も・の本を
②属格語尾+与位格語尾(🕬)	の家から・の家に・の家へ・の家で
③属格語尾+与位格語尾(6㎏)	の家から・の家に・の家へ・のところに・のところへ
④属格語尾+奪格語尾(6分)	の家から・の家に・のサイズより・の服より、の自転車で
⑤属格語尾+造格語尾(6分)	の家から・の家に・の家を・のところに・の家へ
⑥属格語尾+共同格語尾(6 ~)	の分と・の本も・の本と・の本を・ <u>を共に</u>

表2 「助詞+名詞+助詞」で翻訳された実例

表2によると、⑥属格語尾+共同格語尾の訳例に見られる「を共に」のほかは、すべて「(所属・所有の意味を表す)の+名詞+助詞」の形で訳されていることが分かる。

したがって、属格語尾を基本とした二重格語尾を翻訳する際には「の+名詞+助詞」 のうち、助詞の部分にどのような訳語を当てるかが肝要であると言える。

# 7.4 「助詞+助詞」の形式

さらに、二重格語尾を2つの格語尾に分解し、それぞれ語尾に対応する日本語の助詞を当てて翻訳した例も少なからず見られた。下の表3は、それをまとめたものである。

属格語尾を基本とした二重格語尾	「助詞+助詞」の形で翻訳された実例
① 属格語尾+対格語尾 (6㎡)	のも・のを・のと・ <u>をも</u>
② 属格語尾+与位格語尾(🕬)	のに・のへ・ので・ <u>へに</u>
③ 属格語尾+与位格語尾(6分)	のへ・ <u>へに</u>
④ 属格語尾+奪格語尾 (6分)	のから・のより
⑤ 属格語尾+造格語尾(6分)	ので・のへ・のも・ <u>へも</u>
⑥ 属格語尾+共同格語尾 (6 ℃)	のと・のも・との

表3 「助詞+助詞」で翻訳された実例

ここでは、表中の下線を引いたものを除くすべての訳例が「の+助詞」の形で翻訳されている。そのため、日本語学習者の翻訳は属格を基本とした二重格語尾を翻訳する際に前接の属格を「の」で翻訳し、後接の格語尾を文の全体的な意味に合わせて翻訳する必要があると思われる。以下、学習者 6 による調査文 6 の翻訳と学習者 15 による調査文の翻訳を見てみよう。

調查文6: 5 4~ 6 0 1626 1550 11

模範的な訳文: 私 スチン の もの と もって きた。

学習者6の翻訳:私はスチンのと持ってきました。

模範的な訳文:母が料金 を 払う 時 に スチン <u>の</u> <u>と</u> 一緒に 払った。 学習者 15 の翻訳:お母さんお金を払う時にスチンのと一緒に払った。

調査文6は「私はスチンさんの物(所有物)と一緒にもって来た。」という意味である。日本語では、「の」と「と」の間にスチンさんの所有物を表す名詞を置かないと様々な解釈が生まれてしまう。しかし、学習者はモンゴル語の影響を受けて名詞や名詞に相当するものを置かずに二重格語尾をそのまま翻訳していることが分かる。

調査文 15「母が料金を払う時にスチンさんの分と一緒に払った。」と翻訳すると自然な日本語になる。6ただ、学習者 15 の翻訳にあるように「の」と「と」を続けて土地いても決して不自然ではない。その理由として、この訳文の「の」は準体助詞で、「の」自体に「お金」を代用する機能があるからである。ところが、多くのモンゴル

<sup>6</sup> ただし、「母は料金を払う時に自分のお金とスチンさんのお金とで一緒に払った」という解釈も可能である。

語を母語とする日本語学習者はその点を認識しない、たまたま準体助詞の「の」と解される「の」を訳語に採用し、結果として正しい翻訳を導いているという場合が少なくないのである。

このように、モンゴル語の二重格語尾は文脈によって、「助詞+助詞」の形式で翻訳されるものもあれば、直接翻訳されないものもある。そのため、どのような場合に 「助詞+助詞」の形式で翻訳されて、どのような場合に翻訳されないかについてさらに検討する必要があると思われる。

### 7.5 「助詞」の形式

調査文4: 6、4~ 6 € 1626 15369 11

模節的な訳文:私 スチン の もの を もって 来た。

学習者の翻訳:私はスチン<u>と</u>一緒に来た。(協力者7) スチンさんを連れてきた。(協力者6)

調香文 16:000 101/15,1/1025,1110 1055,11/1/112/16 6 代 61/1/11025,500 105(16(11)/1)

模範的な訳文:バトさん 本 を 持って来る とき スチン の 本 も 持

って来て くれた

学習者の翻訳:バトさんはスチンさんの一緒に持ってきました。(協力者1)

調査文4は学習6と協力者7はそれぞれ「を」と「と」と翻訳されている。また調査文16は「を」と翻訳されている。これら3つの訳例はいずれも原文の意味を正しく表していないのであるが、これは学習者がそもそも原文の意味を理解していないことに起因するものと思われる。

調査文7: 抗硫化化的吡代吡啶 口机,...

模範的な訳文:明日 李先生 の 家 に 行きます。

学習者 12 の翻訳:明日李先生へ行きます。

模範的な訳文:昨日 スチンさん の 家 に 行きました。

学習者 18 の翻訳:昨日スチンへ行きました。

最後に、学習者9による調査文10の翻訳と学習者1による調査文15の翻訳を見る。

調查文 10: ᠰᠠᠠ/ ᠪᡳᡳᡡᠬᠵᡢ᠃

模範的な訳文:スチン の 家 から スタートして 調査した

学習者9翻訳:スチンから調査した。

調査文15:4~/65~6% 火 4~/6 1~/ 5/7 1

模範的な訳文: スチン の 服 は サラン の 服 より 大きい

学習者1の翻訳:スチンの服はサランさんより大きい。

調査文 10 の文意は「スチンさんが所属するものからスタートして調査した」というものであるが、学習者 9 は「スチンさんに所属するもの」を訳に反映させることができなかった。この翻訳は学習者 1 の外にも確認されている。また、「サランさんの服」と「サランさん」と比べているよう読め、「助詞」の形で翻訳された例が多かったと考えられる。

# 7.6「φ」の形式

本調査結果、二重格語尾が「 $\phi$ 」の形で翻訳されている例が属格語尾+造格語尾( $\theta$  M)の訳例を除き、それぞれ 60 例中 1 例あったことも判明した。

調查文9: had she togethe on the one of tourne tourne tourne of thank of only hammed tourney.

模範的な訳文: 父 携帯 を 修理 しに 行く 時 スチン の を も もっていきました。

学習者6の翻訳:父は携帯を修理に行く時スチン来た。

調査文9の中での、二重格語尾の部分が日本語で翻訳されていないことが確認できる。

#### 8. まとめ

本稿では、中国内モンゴル自治区におけるモンゴル語を母語とする日本語学習者が モンゴル語を日本語に翻訳するに際して属格語尾を基本とする6種類の二重格語尾を 処理する方法にいかなる特徴がみられるかを明らかにし、その分析を試みた。

- ① 属格語尾を基本とする二重格語尾の翻訳には「助詞+名詞」、「名詞+助詞」、「助詞+名詞+助詞」、「助詞+知詞」、「助詞」、「ゆ」の6つの形が見られる。そのうち、「助詞+名詞」、「名詞+助詞」、「ゆ」の形で翻訳されるケースは少なく、「助詞+名詞+助詞」、「助詞+助詞」、「助詞」の形で翻訳されるケースが多く見られた。
- ② 最後に、考察を通して、学習者の習得には母語であるモンゴル語の影響の外に、第二言語である中国語の影響、地域差と学習者本人の日本語能力なども影響していることが明らかになった。そのため、これらをさらに検討する価値があると思われる。

#### 日本語参考文献(五十音図順)

浅川哲也・竹部歩美(2014)『歴史的変化から理解する現代日本語文法』おうふう

- エルデネビレグ ウヤンガ (2009) 「日本語とモンゴル語の格関係の対照」『信州大学 国語教育学会』19巻、pp. 1-11.
- 小沢重男(1997)『蒙古語文語文法講義』大学書林
- 小林幸江 (1981)「モンゴル人に対する日本語教育の研究-モンゴル人学生の誤用例を中心に-」『日本語学校論集』8号、pp. 25-38.
- -----(1983)「モンゴル人学習者の作文にあらわれた誤用例の分析-格助詞に関する誤用について-」『日本語学校論集』10 号、pp. 44-53.
- サレンチモグ・竹嶌志起・松本忠博 (2011)「日本語からモンゴル語への機械翻訳における格助詞の対応について」『言語処理学会』第 17 回年次大会 発表論文集、pp. 392-395.
- スヘバートル・サインザヤ (2004)「モンゴル人学習者の誤用の原因となる用法ズレー 日本語の格助詞「に」「で」「を」とモンゴル語の格語尾との対応―」『中部言語学 会』小泉保先生喜寿記念特記号
- 張麟声(2001)『日本語教育のための誤用分析―中国語話者の母語干渉 20 例』スリーエーネットワーク
- 寺村秀夫・益岡隆志・田窪行則 (1988) 『日本語文法 セルフ・マスターシリーズ3 格助詞』 くろしお出版
- フフバートル (1993) 『モンゴル語基礎文法』 インターブックス
- -----(1997) 『続モンゴル語基礎文法』 インターブックス
- 山口幸二 (1972)「日本語の格的表現における諸問題 I」『日本語・日本文化』(大阪外国語大学研究留学生別科) 3 号、pp. 62-101.
- -----(1978)「<従属句>に於ける格表現について」『日本語・日本文化』(大阪外国語大学研究留学生別科) 7 号、pp. 43-56.
- -----(1980)「モンゴル語の「格」の表現」『日本語・日本文化』(大阪外国語大学研究留学生別科)9号、pp. 19-32.
- 李晶(2000)「日本語教育における日本語と蒙古語の文法特徴についての一考察」『留学新潟産業大学人文学部紀要』19号、pp. 109-119.
- ---- (2001)「日本語教育における日本語と蒙古語の「助詞」の使い方についての一 考察」『留学生教育』6号、pp.127~138

# 中国語の参考文献(ABCD順)

内蒙古大学蒙古学学院蒙古语文研究所(2005)『现代蒙古语』内蒙古人民出版社.

青格尔泰(1999)『现代蒙古语语法』蒙古语民族出版社.

赛罕乌其拉图 · 塔娜(2013)『日本語基礎文法』内蒙古人民出版社.

乌兰其其格(2017)『蒙古族大学生学习使用日语格助词的研究』民族出版社.

援朝・嘎拉桑 (2012)『蒙古语言学大辞典』辽宁民族出版社.

# モンゴル語の参考文献(スッッ/ ๑゚๗゚๙ ๙ ๑๙ ๑๙๗゚๙

 $^{\circ}$ 

# (ゴ スチンゴワ・東京都立大学大学院博士後期課程)

# 調査文:

- (1) ولا مسلال المراجع والمراجع والمراجع المراجع المرا
- (3) 65 450 € 66 9000 68 10250 15560 ···
- (5) 60 4 mary 6 60 10 acos 155,60 1.
- (6) On 4 mary 6 and 1 mone 1 man 1 m
- (7) להתייור לר הייור היי פר וסבהיין יי
- (৪) 1০১৯০০ ১৮৯ € ৪ ৪ 1০৯ ₹ 1 •
- (10) 4-21/612/19.41 Box Confort ...
- (11) פר פתרויים אביל אינדים אינדים אינדים אינדים האינדים האינדים אינדים אינדים
- (12) זבר להתירום ביל משורק איים להביל ביל מיל מולקם משורק איים להביל ביל מיל מולקם משורק איים ביל מיל מולקם משורק איים ביל מיל מולקם מיל מולקם מיל מילקם מיל מילקם מיל מילקם מ

- (15) 4 mary 6 stoodards 15 4 mary 6 1 m/ 5107 ...
- (16) סיקט זייל ההיל זיים אינים זיים זיים אינים לי מינים אינים מינים אינים איני
- (17) אתר ארת אירורן איתר 6 הר זים בכם זיגהרוות רתן יי
- (18) סיבם של ההיל ששייות שיבול בייל היה והולב ששייות ועל בייל היה והולב ששייות ועל היל בייל היה וולב של היה וולב ש